

「ケイト・スピードNY」

衣料・小物を強化



春から服を拡充する「ケイト・スピードニューヨーク」

既存店好調で
出店数を増加

米ブランド「ケイト・スピードニューヨーク」を輸入販売するケイト・スピードジャパンは、バッグ・靴以外のアパレル製品や小物の品揃えを強める。11年春からは、服と雑貨混在のトータルショップや服メインの売の場作りも積極的に行う。店舗数を現在の42から、14年までに60に増やす計画だ。

これまでバッグ・靴以外のアイテムは路面店に限定していた

が、顧客の再来店とセット購買の頻度を上げる効果が見られるため、品揃えの幅を広げるとともに扱い店を増やす。特に服は、本国での売上げ構成が40%で、11月に伊勢丹本店2階で行った期間限定販売でも売上げの半分を占めたことなどから強化する。アパレルは仕事やプライベートに使えるデイリーカジュアルがコンセプトで、ワンピース(4万円台)5万円台前半中心)やデニム(2万円台前半)など。来春夏は赤、ピンク、黄、緑など鮮やかな色めを打ち出す。また、3月からはフレグランスラインも導入。オードパルファンやボディークリームなどを揃える。

出店は、バッグと服を同じ館のフロアをまたいで展開する

「2層型」と、アイテムを混在させた「トータルショップ型」の2パターンを準備。2層型は、百貨店のバック平場の既存店売の場を維持しながら、婦人服フロアに服主体のショップを並存させる。3年以内に5店を出す。トータルショップ型は3年以内に新たに10店以上を構え、既存店の移設・改装などで数店を切り替える計画だ。11年春には既に百貨店数店の新規オープンや改装が決まっており、中には服主体のショップもあるという。

ケイト・スピードジャパンは、09年にサンエー・インタナショナルと米ケイト・スピードとの合弁で設立。10年8月期は9カ月決算で売上高39億8500万円。今期は55億円を見込む。はつきりとした色使いが好まれており、既存店売の上げは前年比8〜10%増で推移しているという。